

命をかけて煙害と戦う若者たちの魂が奇跡を生んだ!

100年前の実話を描いた
文豪 新田次郎の小説を映画化

ある町の高い煙突

井手麻渡 渡辺 大 小島梨里杏
吉川晃司 仲代達矢

大和田伸也 小林綾子 渡辺裕之 六平直政 伊嵩充則 石井正則 螢雪次朗 斎藤洋介 遠山景織子
篠原 篤 城之内正明 大和田健介 たくみ 稜



原作:新田次郎「ある町の高い煙突」(文春文庫・刊) 企画協力:文藝春秋 ナレーション:阿川佐和子

エグゼクティブプロデューサー:鈴木一良 宮本澄江 脚本:渡辺善則 監督・脚本:松村克弥 プロデューサー:亀 和夫 城之内景子

撮影:辻 智彦 照明:大久保礼司 美術:長谷川 功 飯塚優子 装飾:谷田祥紀 VFX:武田貴之 録音:岸川達也 編集:川島章正 記録:内田智美 音楽:小野川浩幸 テーマ曲:いつでも夢を

衣裳:日代博昭 笹倉三佳 ヘアメイク:大久保恵美子 助監督:島添 亮 制作担当:渡邊翔太 高橋誠喜 キャスティング:伊藤尚哉 プロデューサー:谷口昭仁 ラインプロデューサー:戸山 剛 アシスタントプロデューサー:阿部瑠子 題字:秋葉生白

協力:映画「ある町の高い煙突」を応援する会 映画「ある町の高い煙突」製作委員会 日立市 茨城県 いばらきフィルムコミッション 吉田正記念オーケストラ

配給:エレファントハウス/Kムーブ 製作:Kムーブ 制作協力:マウンテンゲートプロダクション Yプロダクション 製作著作:© 2019 Kムーブ takaientotsu.jp

6月22日(土)~全国ロードショー



『八甲田山』『劔岳 点の記』の原作で知られる 昭和の文豪・新田次郎が描いた〈日立鉦山〉の奇跡



〈日立の大煙突と桜並木〉に秘められた“感動実話”を
日本映画界を支える実力俳優たちの迫真の競演で
『天心』『桜花—桜花最期の特攻—』の松村克弥監督が映画化!



100年前、明治の終わりに、命をかけて環境破壊と闘い、愛と誇りを守った人たちがいた——。

1910年茨城県日立市。世界中で急速な近代化が進む中、急増する銅の需要に応えるべく発展を続ける日立鉦山は、排出する煙に苦慮していた。地元の緑美しい山々は荒れ果て、農作物は次々と枯れていき、廃村の危機を迎えていた。怒りに震える住民たちとの補償交渉もままならない中、村の若き代表者・関根三郎は、鉦山側の窓口である青年・加屋淳平と協力して解決策を模索。その熱意はカリスマ経営者・木原吉之助と国をも動かし、やがて無謀とも言われた世界一高い大煙突建設の夢へとつながっていく…。

主演は、無名塾出身の新鋭・井手麻渡。共演には『ウスケボーイズ』でマドリッドとアムステルダム国際フィルムメーカー映画祭で主演男優賞を受賞した渡辺大。ヒロインには『オオカミ少女と黒王子』の小島梨里杏。さらに、日本を代表する名優・仲代達矢、個性俳優としての地位も確立したアーティスト、吉川晃司らが実録ドラマに厚みを与えている。さらに、伊寄充則、螢雪次朗、小林綾子、石井正則、大和田伸也(友情出演)、六平直政、渡辺裕之、斎藤洋介ら、日本のエンターテインメントを支える実力俳優が集結した。監督は、復興支援映画として完成させた『天心』や『桜花—桜花最期の特攻—』で、ヒューマンドラマの名手として高く評価された松村克弥。

地球規模での環境問題が深刻化し、CSR(企業の社会的責任)が最も重要視されるようになった21世紀の今こそ、その原点として一人でも多くの方に届けたい感動の実話である。



現在のJXTGグループ、日立製作所、日産自動車など日本の発展に大きく寄与した
春光グループの源流である日立鉦山(現・JX金属)の魂の物語。

実在の人物



関 右馬允(せきうまのじょう)
1888年-1973年。茨城県生まれ。茨城県の入四間(いりしけん)村(現・日立市)の煙害対策委員長に若くして就任。進学も外交官になる夢もあきらめ35年間、煙害防止と環境保全、そして補償交渉に取り組んだ。



角 弥太郎(かど やたろう)
1869年-1965年。広島県生まれ。日立鉦山の庶務課長として、村民への煙害被害の補償交渉に当たった。誠意を持った交渉で事態の解決に専心。煙害に強い桜など、500万本の市内植林運動を提唱した。



久原 房之助(くはら ふさのすけ)
1869年-1965年。山口県生まれ。1905年に赤沢銅山を買収、日立鉦山に改称し開業した。「一山一家(いちざんいっか)」と呼ばれる風土を生み出し、従業員とその家族との連帯感を是とした。1928年に立憲政友会に入党、衆議院議員に初当選し、通信大臣に任命。1939年には立憲政友会総裁に就任した。

「日立鉦山の大煙突」とは

- 高さ155.7メートル(当時世界最高)
- 1914年3月13日着工
- 1914年12月20日完成 ■1915年3月1日通煙
- 使われたコンクリート:3,023キログラム ■鉄筋:319トン
- 従事した労働者の人数
男性32,389名、女性4,451名の計36,840人

3か月に及ぶ基礎工事を経て、約9か月後には完成。稼働によって周辺への煙害は激減。1950年代には技術の進歩により亜硫酸ガスの排出量は半減、1972年にはほぼゼロとなった。1993年2月に自然倒壊、現在は54メートルとなったが、現在も蒸気排出に使われている。

☆引用、参考資料 ●「天馬空を行く久原房之助物語」画:田中誠文・吉成茂/公益財団法人日立市民文化事業団発行 ●「日本で初めて公害を解決に導いた男 角彌太郎の生涯」著:鈴木克士 西宮鷹堂印刷発行 ●「写真でたどる日立百年のあゆみ」日立市郷土博物館発行 ●「調査報告書 日立のさくら—ルーツとあゆみ」日立市郷土博物館 1998 ●「鉦山と市民 聞き語り日立鉦山の歴史」鉦山の歴史を記録する市民の会編 1988 日立市役所 ●「大煙突の記録—日立鉦山煙害対策史—」日鉦金属株式会社編1994 ●「郷土の発展につくした人々」日立市郷土博物館解説リーフレット 日立市郷土博物館 ●「日立鉦山 煙害問題普話 日鉦関係忘れぬ人々」関右馬允 1963 郷土ひたち文化研究会 ●「カメラでつづった半世紀」『写真集 カメラでつづった半世紀』編集委員会1987 (財)日立市民文化事業団 ●「日立鉦山の大煙突」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』(http://ja.wikipedia.org/)。2019年1月18日21時(日本時間)現在での最新版を取得 協力:日立市長公室広報戦略課シニアプロモーション推進室/日立市郷土博物館

「ある町の高い煙突」2019年/日本映画/カラー/130分/シネマスコープサイズ/5.1ch/配給:エレファントハウス/Kムーブ ©2019 Kムーブ

6月22日(土)待望の全国ロードショー

上映館など詳しくは takaientsotsu.jp